（別紙4）　　令和　4　年度

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	4271401681		
法人名	有限会社　協和		
事業所名	グループホームひまわりそう		
所在地	長崎県南島原市有家町尾上1608番地		
自己評価作成日	令和4年7月22日	評価結果市町村受理日	令和4年11月4日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。（↓このURLをクリック）

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/42/index.php

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	特定非営利活動法人　ローカルネット日本評価支援機構
所在地	長崎県島原市南柏野町3118-1
訪問調査日	令和4年10月6日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

コロナウイルスが拡大しているので出来るだけ外出を避け感染者が出ないようにしているが、家族から感染し12日間休ませ入居者様には現在は感染していない。今後も感染しない様に努めたいと思っています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点（評価機関記入）】

ホームの窓からは普賢岳と有明海に浮かぶ初島を望むことができる風光明媚な場所にある。理念をホーム玄関と廊下に掲示し、毎朝の申し送りの際に職員が唱和したり、代表者がケース会議に合わせてその想い伝え、意識づけを図っている。ホームの近隣には代表者が所有する菜園があり、季節の野菜等を栽培し、入居者とその収穫を喜び、旬の食材を食卓に並べたり、誕生会には、稲荷・赤飯・ちらし寿司、ケーキなどを食卓に並べ、全員でお祝いをするなどして、座席が密にならないよう工夫しながら食事が楽しみなものとなるよう取り組んでいる。敬老会には、地域の婦人会や子ども達が参加して踊りを披露するなど、入居者の喜びとなっている。コロナ禍前は近隣の小学校へ入居者が運動会や文化祭に参加するなど交流していた。コロナ禍終息後にはあらためて地域交流を再開する意向である。

Ⅴ．サービスの成果に関する項目（アウトカム項目）　※項目№1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

	項　目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる （参考項目：23,24,25）	○	1. ほぼ全ての利用者の
			2. 利用者の2/3くらいの
			3. 利用者の1/3くらいの
			4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある （参考項目：18,38）		1. 毎日ある
		○	2. 数日に1回程度ある
			3. たまにある
			4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている （参考項目：38）	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている （参考項目：36,37）		1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
		○	3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている （参考項目：49）		1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
		○	4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている （参考項目：30,31）		1. ほぼ全ての利用者が
		○	2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
62	利用者は、その時々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている （参考項目：28）		1. ほぼ全ての利用者が
		○	2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない

	項　目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている （参考項目：9,10,19）	○	1. ほぼ全ての家族と
			2. 家族の2/3くらいと
			3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている （参考項目：2,20）		1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度
		○	3. たまに
			4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている （参考項目：4）		1. 大いに増えている
			2. 少しずつ増えている
		○	3. あまり増えていない
			4. 全くいない
66	職員は、活き活きと働けている （参考項目：11,12）		1. ほぼ全ての職員が
		○	2. 職員の2/3くらいが
			3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う		1. ほぼ全ての利用者が
		○	2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が
			2. 家族等の2/3くらいが
			3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどできていない

自己評価および外部評価結果

ユニット名

自己	外部	項　目	自己評価 実践状況	外部評価 実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅰ.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	朝の朝礼で暗唱し、共有しています。	理念をホームの玄関や廊下に掲示し、毎朝の申し送りの際に職員が唱和したり、代表者がケース会議等に合わせて理念の想い伝え、意識づけを図っている。職員は年間目標を立て、入居者の心に寄り添い丁寧な声掛けに努めている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	コロナ禍であり、なかなか地域の方々との交流の場が無いのが現状です。	ホームで行う敬老会には家族や、婦人会、子どもといった地域の方の参加があり、踊りを披露するなど楽しまれていた。近隣小学校とは運動会や文化祭に入居者が参加し、交流を行っていた。コロナ禍が終息後に交流を再開する意向である。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	コロナでなかなか地域の方々と接触できません。活かす場が今は無いです。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	各棟の現状を理解していただけるようにお伝えし、助言をいただき、ケア会議で話し合い、サービス提供を行っています。	運営推進会議は2か月毎に開催している。広域市町村圏組合職員・民生委員・家族代表・地域住民代表・ホーム職員が参加し、入居者の状況やホームの取り組みを知らせ、挙がった意見をサービスに活かしている。コロナ禍により書面会議となった場合は、運営推進会議事録を全委員へ郵送し、意見・了解書を受けてサービスに活かしている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	コロナで直接会うことは少なくなっていますが、パソコンを通し、メールなどで情報提供を行っています。	運営推進会議に広域市町村圏組合職員が参加しており、入居者の状況やホームの取り組みを知らせ、意見等を受け対応している。成年後見制度を利用する方には成年後見センターや市保護課とも相談しながら取り組んでいる。介護保険更新時には、広域市町村圏組合へ出向き、手続きを代行している。	

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	現在職員不足で、やむを得ず玄関の施錠をしてしまう事はありますが、施錠をしないような心掛けとして、ケア会議で毎回話し合いを行っています。	身体拘束廃止の取り組みの指針を整備し、令和4年6月には身体拘束及び高齢者虐待の防止についての内部研修を行った。現在、下肢筋力低下により転倒の危険性が高い方がおり、車椅子使用時に腰の安全ベルトを使用している。尚、経過観察記録を残し、毎月、ケア会議・身体拘束廃止委員会に諮り、入居者の状態を話し合うと共に運営推進会議にも報告している。	毎月、ケア会議や身体拘束廃止委員会を通じて入居者の状態を話し合い、経過観察記録を残し、身体拘束の解除に向けて取り組んでいることが窺える。常態化しないよう引き続き話し合いを継続しながら解除に向けて取り組むことに期待する。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている	身体拘束や虐待防止について職場内研修を行い、再認識をする機会が作られています。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	実務者研修などに参加し、学びの機会が作られています。しかし、新型コロナにより研修開催が無く参加できません。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	月々の支払で施設にいらした家族の場合は電話での話を伺う事は有ります。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議で行われています。	職員は家族が面会等でホームへ訪れた際に入居者の状態を知らせ、家族の意見や要望を聞くようにしている。ホーム便りは、年3回、入居者の近況報告・行事・コロナ関連情報等を載せ家族に知らせている。	

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ケア会議で話の場が設けられています。	管理者は毎月のケア会議を通じて職員の意見を把握している。職員意見を踏まえ、重度の方にも対応できるよう移動式浴槽、リフト付き浴槽を整備した。職員の有給休暇や、希望休が取れるよう配慮している。職員の悩みや相談事はケアマネジャーが窓口になり助言等を行っている。	職員がスムーズに意見や提案ができ、安心して働ける職場環境を作り上げていくためにもハラスメント対策を講じ必要な体制を整備することが望まれる。
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員不足で、厳しい所が有ると思われます。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	自身のケアの行い方について考える機会はあります。日々がトレーニングと思っています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	業者様の勉強会にリモートで参加する事もあります。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所されて直ぐ聞き取りを行うようにしています。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所されてからも話の場を設けるようにしています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	利用者様本人とご家族とは同じように話を聞き、対応するようにしています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	少し配慮に欠けている所が有るので、これから見直していきます。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	コロナ禍でもあり、ご家族と一緒に支援をすることが厳しくなっていますが、意見は取り入れさせて頂いています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	コロナで関りが減ってきているご家族が増えました。	コロナ禍の為、入居者の家族や友人が面会に訪れる際は窓越しにて面会ができるようにしている。以前は馴染みの美容室へ行く方もいたが、現在は職員が散髪対応する方もいる。趣味活動の編み物を入居後も継続できるよう毛糸を購入したり、絵画を描くのが好きな方には居室の壁に掲示し楽しめるよう工夫するなど取り組んでいる。	

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	日々考え支援に努めています。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	支援協力がある限りおこないます。		
Ⅲ．その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	（9）	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	なかなか想いを口に出せない方もいたりして、日々の行動からくみ取るようにしています。	職員は入居者の表情や態度を観察しながら話しかけ、難聴の方には耳元で話しかけて入居者の意向を汲み取るよう努めている。離設する方にはその方が落ち着くまで職員が一緒に歩いて気分転換を図っている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	利用者様のルーティンは曲げないようにしています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々、心身状態について観察しています。過ごし方は一人一人違うので。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	話し合った課題については、ケア会議の議論として介護計画の題材となっています。	ケア会議で担当職員が把握した入居者の状態を報告し、ケアマネージャーが入居者の状態に即した介護計画を作成している。面会時や、遠方の家族には電話で説明し、計画案を郵送して同意を貰い、実践している。3か月毎に介護計画を見直し、また、本人の状態変化に応じて随時介護計画を見直している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	特に変化がある事については、別にメモとして残しています。（職員ノートなど）		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々に生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	柔軟な支援とはいきませんが、サービスについては色々と考え、出来ることをまず行っています。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	成年後見人制度を利用し、社会復帰された方も居ます。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医の変更があった場合も直ぐに対応できるようにしています。	入居の際にホームの協力医に移行する方もいるが、入居前のかかりつけ医を継続して受診することもできる。受診には職員が個人記録を持参し、入居者の医療情報を伝えている。月初めには協力医や薬局の薬剤師の訪問があり、医療と連携した支援が本人や家族の安心に繋がっている。	

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	医療連携の時に変化についての報告や話をするようにしています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	かかりつけ医と連携を図り、情報交換や相談を行うようにしています。（入院先の病院とも）		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	看取りについての話も行うようにしています。心臓マッサージや救急搬送について。	入居時に入居者及び家族へ看取りの指針を説明している。職員は看取りの研修会に参加して心構えや手順などを学んでいる。.重度化した場合は医師・看護師・家族・職員と話合う機会を持ち、家族の希望を尊重した支援を行っている。訪問看護を依頼し、医療面でのサポートを受けながら看取りケアを実施している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	消防署の救命講習を受講しました。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を日常的に防火管理及び消火、避難訓練等を実施することにより、全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。 また、火災等を未然に防ぐための対策をしている	年に数回施設で消防署の立会いの下行っています。	年2回、昼間・夜間火災想定の自主避難訓練を実施している。前年度、コロナ禍の為、消防署による訓練への参加はなかった。職員は重度化した方の避難方法や消火器操作方法を習得している。	自然災害が顕著になっている昨今、職員が被災することなど様々な状況を想定した訓練実施や今後の体制づくりに期待する。また、BCP（業務継続計画）の策定を準備し取り組むことに期待する。

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅳ．その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	日々配慮することを考え、声掛けを行うようにしています。しかし、時に気が立ってしまい厳しい声掛けをしてしまいます。	毎月、ケア会議にて接遇について話をしたり、業務中に不適切な言葉かけがあった場合はその都度ケアマネ―ジャーが注意し、入居者の尊厳やプライバシーを損なわない対応をするよう留意している。便りなどへの入居者写真の掲載について、家族へ口頭で説明し同意を得ている。	入居者写真の掲載について、口頭で説明し同意を得ているが、文書でも説明し同意を残すよう取り組むことが望ましい。
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	自身で出来ることはしていただくように声掛けを行っています。（状況にあわせて）		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	時に都合を押し付けてしまう事があります。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	気候と状況に合わせて声掛けを行うようにしています。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	食物アレルギーを持たれている利用者様もいらっしゃるので、気がけています。	旬の食材を購入して、職員が交代で調理し入居者の状態に合わせて、刻み食、トロミ食を提供している。誕生会は、稲荷・赤飯・ちらし寿司などを作ったり、ケーキでお祝いをしている。入居者の残存能力を活かし机拭きなど手伝ってもらっている。座席が密にならないよう工夫しながら食事が楽しみなものとなるよう取り組んでいる。	

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	量に関しては、体の状況と本人様の希望に合わせて提供しています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	義歯をうまく磨けない利用者様については、預かり磨いて渡すようにしています。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	ズボン・おむつの着脱で一部介助が必要な方も手伝うようにしています。	排泄表を付けて時間を決めてトイレ誘導をする方、立位の困難な方は、2人介助でトイレでの排泄支援を行うなど、入居者個々に合わせた支援を行っている。職員がパツトの大きさを話し合い、昼間・夜間と大きさを変えて家族の経済的負担の軽減を図っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分摂取が出来ない利用者様には声掛けをし、出来るだけ飲んでいただくように勧めたいます。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	職員不足で個々に応じてできません。	入浴は、週2回午後を基本として支援している。重度の方は移動式浴槽やリフト付き浴槽を利用できる。入浴を拒否する方には、無理強いせず、翌日に入浴するなど配慮している。入浴の際はバイタルを確認し、本人の体調を考慮し、また、皮膚疾患の状態により、医療機関より入浴方法や薬の処方の指示を仰ぎ、入浴支援を行っている。	

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	昼寝の声掛けをしたりします。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	かかりつけ医に相談し調整をしています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	気分転換として施設南側が有明海のため、南側に面した窓から眺めて頂いたりしています。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナによりなかなか施設外に出れていません。通院以外。	コロナ禍前は季節の花見やドライブ等に出かけていたが、コロナの感染状況により外出は自粛している。葬式や法事には参加できるよう家族とも相談しながら支援している。	コロナ禍で外出できていないが、感染状況に留意しながら、庭に出て散歩したり、短時間でも日光浴するなど気分転換を図る取り組みに期待する。また、気候や時季に応じた花見など、感染対策に配慮しながら外出できる取り組みに期待したい。
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ある程度は手元に持たれている利用者様もいますが、ほとんどの利用者様は施設に預けたり、ご家族様に預けられたりしています。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	自ら電話を掛けたいと言われる利用者様はいません。言われた時の支援になっています。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節感がわかるような飾りつけをしています。	ホームの窓からは普賢岳や有明海に浮かぶ初島、隣接する菜園を望むことができ、入居者の癒しになっている。共用空間に配置したイスには入居者個々の座布団を置き、談話したり、テレビを見て寛ぐなど思いおもいに過ごされている。共用空間は毎日掃除をして、また、毎朝窓を開けて換気し、入居者が居心地よく過ごせるよう配慮している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	TVの部屋が共有空間で、その部屋に来て話をされたりしています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家具は施設の物ばかりですが、布団類は本人様の持ち込みです。	居室には家族の写真、仏壇、テレビ、整理ダンス、棚、置時計、手鏡など、好みの物を持ち込まれており、個性のある居室づくりができている。大きめのクローゼットや.収納箪笥が備え付けてあり、使い勝手がよく、整理がしやすい。杖が取りやすいようベットの枠に手作りの杖置きを設け、入居者が立位し易いよう工夫している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ほとんどが施設の備え付けですが、機能訓練の為の設備もあります。（上下肢運動の）		

自己評価および外部評価結果

ユニット名

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅰ.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	毎日の朝礼の時に復唱している。理念をもとに利用者へのケアを行っている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	コロナのため、外部の方との接触を控えている為この約2年交流が途絶えている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	コロナのため、外部の方との接する機会がなくなっている。コロナの流行前に比べると、生かす場がなくなっている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	コロナの感染状況を考慮し代替での報告をすることもある。利用者の状況、サービスの状況などの報告をし、助言、アドバイスを頂いている。毎月のケア会議で活かせるよう話し合っている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	何かあれば必要に応じて相談し、協力していただいてます。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	利用者の状態に向けて毎月話し合い現在、ご家族に説明し、同意を得て身体拘束を実施している方が2名いる。やむを得ない場合のみ実施し必要以上に実施しないようにしている。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている	今までの研修を通じ、起きてはいけないことだと理解している。態度や言葉遣いなど気を付けて利用者のケアを行うようにしている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	日常生活自立支援事業を利用されている方がいる。また、以前入所されていた方で自宅での生活を希望されたので社協、家族裁判所の担当者を交え話し合いを行い、成年後見人制度を利用し、帰宅を実現された方がいた。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約前にはホームを見学してもらっている。その際に説明し、理解、納得をして頂くようにしている。その後も必要に応じ、来訪時や電話など説明するようにしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	来訪された時に意見や要望などないか尋ねている。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月のケア会議の時や毎日の朝礼の時など職員が意見を出したり、提案したりしている。必要に応じ運営推進会議で話し合って頂いている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	施設長も探しておられるが、人手不足のため疲労していることは否めない。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	コロナのため、外部の研修に参加することは減ってしまった。普段のケアについて冷静になり振り返り次につなげるようにしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	コロナ前と比べると、同業者と交流することは減ってしまった。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	慣れない環境での不安な気持ちに寄り添い、配慮しながらコミュニケーションをとっていくようにしている。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族の不安や要望など聞き、コミュニケーションをとりながら信頼関係が築けるように努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人やご家族、情報提供者（ケアマネ）などに要望、不安な事、困り事など聞き取りを行い、必要な支援ができるように努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者を介護される側だと思ってしまう時がある。暮らしを共にする者と考え、尊厳を大切に支援、ケアを行っていけるよう努めたい。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	来訪時には利用者の様子を報告している。コロナのためガラス越しですが、面会して頂いている。また、状態に変化があったら、電話で報告していただく事もある。		
20	（8）	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	現在はコロナ感染予防のため面会はガラス越しで行って頂いている。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	コロナのため、外出も例外（葬式、法事など）を除いて病院受診のみになっているため交流が減ってきている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所後には関係が途切れてしまう事が多い。		
Ⅲ．その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	（9）	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者の思いや希望、要望などを聞いたり、意思疎通が困難な方にはご家族に相談しながらその人らしく生活するために必要な支援は何か職員同士で話し合い実現できるように努めている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	利用者の情報を職員間で共有しその情報をもとにどのように支援していくかなど話し合い考えながら支援している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	普段から様子の観察に努め、変化があった時には素早く気づけるようにしている。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ケア会議で利用者一人ひとりの情報を把握し、必要な支援について意見を出し合っている。ご家族や利用者本人の思いや考えなどを考慮し、利用者本人の現状に合った介護計画になるようにしている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	変化があった時には介護日誌に記録している。特に重要なことは連絡帳に記載し、職員間で共有するようにしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々に生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ケア会議で利用者の状態について共有し新しいニーズに対して、必要な支援やできることを考え話し合っている。必要に応じ、ご家族にも協力をお願いすることもある。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	自宅へ帰りたいという希望があり成年後見人制度の利用開始後自宅へ帰られた方もいる。地域資源にはどんなものがあるかわからないため、今後に向けて勉強していきたいと思う。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人とご家族の意向をもとにかかりつけ医を決めている。定期受診や往診時に状態や変わったことなどを報告し、利用者が適切な治療を受けられるよう努めている。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週1で看護師が訪問されている。状態の報告や気になったことなどを相談し、利用者が適切な受診を受けられるよう努めている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院時や退院時には、情報を共有できるように努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	利用者の状態を説明し重度化した場合、急変時の対応についてご家族の意向を聞き、ホームでできることを話し合っている。また、看取りを希望された時にはかかりつけ医やご家族にも協力して頂きながら、どのように対応していくか決めている。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	研修などに参加し事態発生時に備えているがまだまだ職員全体で発生時にどのような対応が必要か話し合う必要性があると思う。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を日常的に防火管理及び消火、避難訓練等を実施することにより、全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。 また、火災等を未然に防ぐための対策をしている	災害時などの避難訓練は実施しているが最近は大雨などの災害が発生しており、他人事ではないと思っている。そのような災害発生時の避難訓練が必要だと思う。		

自己	外部	項　目	自己評価 実践状況	外部評価 実践状況	外部評価 次のステップに向けて期待したい内容
Ⅳ．その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者一人ひとりの尊厳を尊重し日々の支援ケアを行っているが時には感情的になってしまうことがあり反省することもある。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ちょっとしたことでも本人に尋ねて決めてもらうように心がけています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	日によってこちら（職員側）の都合に合わせて頂くことがある。できる限り利用者にとって無理のないペースで日々を過ごして頂けるように心掛けている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	職員が定期的に散髪したり、季節に合った洋服を着て頂けるように声掛けをしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	メニューは季節感のあるものにし、少しでも楽しんで頂けるように配慮し一人ひとりに合わせた食事の形態になるよう工夫しています。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量については毎日の食事の様子や毎月の体重の増減を考慮し増やしたり、減らしたりしている。また、利用者の状態に刻み食にしたり、水分にとろみをつけたりと提供に工夫している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後には声掛けし、必ず行って頂く。なかには介助が必要な方や、磨き直しが必要な方などいらっしゃるため必要に応じて磨き直しやケアを行っている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄表を見て、声掛けや介助を行っている。できることはして頂きながら出来ない所は手伝うようにしている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分を多めに摂ってもらったり、出来る範囲で体を動かしてもらうようにしている。どうしても自然な排便ができない方もいるのでかかりつけ医に相談し、下剤、便秘薬を処方してもらっている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	週2日、曜日と時間帯を設定している。5月には菖蒲湯、12月にはゆず湯を提供し季節を感じられるように工夫している。個々の希望に応じたサービスは難しいのが現状です。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日によって利用者の状態は違ってくるため、それに併せて眠れるように支援している。不眠の傾向がある方には医師に相談し眠剤処方をしてもらっている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の変更があった時には職員間で情報提供している。錠剤が困難な人は粉砕してもらい、一人ひとりにあったようにしてもらっている。服用時には必ず名前と日付を確認し、間違いのないように気を付けている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	出来る方には洗濯物畳みや新聞折り、机を食後に拭いてもらったりとホームの軽作業を他の利用者と相談しながら、手伝っていただいている。時にはカラオケ風船バレーなどのレクリエーションを行い楽しんで頂けるようにしている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナの感染予防の為病院受診以外の外出は例外（葬式、法事）を除き控えて頂いている。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	認知症で物忘れのある方がほとんどなので紛失する可能性が高いため、個人で持って頂くのは難しいと思う。ただ、本人が希望され手元に持たれている方もいます。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	手紙のやり取りをされる方はいない。電話を掛けたいとお願いされる方はいるため、番号を押し、事情を伝え、話をして頂いている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	転倒防止のため、床には何も置かない様にしている。エアコンの温度もその日に合わせて温度を調節している。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	フロアで過ごされたり、自室で過ごされたりと一人ひとり思い思いに自由に過ごしてもらっている。利用者同士で会話されてる方もいて、必要に応じて会話の橋渡しをしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自宅から使い慣れた物を持って来てもらい、本人にとって居心地がいい部屋になるよう心掛けている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	歩ける方、車椅子の方が不安なく安全に生活ができるよう努めている。		